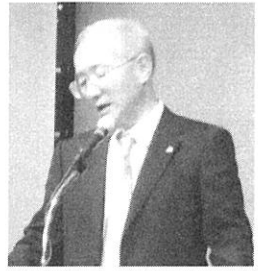


東京X総会、植村会長ら再任、15周年記念行事に約350人参集



TOKYO X—Association (会長＝植村光一郎(株)ミートコンパニオン常務執行役員)は21日、東京プリンスホテルで通常総会を開催、平成25年度事業報告や26年度事業計画等を承認し、任期満了となった役員改選では、植村会長、糸瀬好弘副会長、中村敏章、小林和人、北村陽三、林実の4理事を再任し、新たに佐藤進一(株)京王プラザホテル八王子事業部総料理長を理事・監事に選任した。

植村会長(写真)は「25年度の生産・出荷計画では1万頭を目指したが、8247頭にとどまった。ことしは創立15年であるが、20周年に向けての第1歩として現在は1万頭で伸び悩んでいる。20周年がオリンピックの前年(2020年)なので、繁殖豚の増頭を5年間で計画して2万頭に向けた生産体制を確立したい。東京だけでなくオリンピックを機会に世界に向けて情報も発信したい」とあいさつ。来賓では東京都議会の清水孝治議員が「冷めても美味しく、このような豚なら私も支援したいと都議会で舛添知事に豚肉で質問したら、イベリコ豚より東京Xのほうがうまいといっていた。知事も何かとXを支援してくれている」とあいさつ。都農水産部農業振興課の平野直彦課長、都農水産振興財団の松本義憲理事長、中央畜産会の菱沼副会長、日本獣医師会顧問で農場管理獣医師協会の北村会長もそれぞれ祝辞を述べた。

また創立15周年を迎え記念行事として、都知事賞が元東京X生産者組合長の榎戸武司氏に、都農林水産振興財団理事長賞が青木清元生産組合長と兵頭勲農学博士に授与された。さらに15周年記念講演として「TOKYO Xの歴史とこれから、そして世界の友人の紹介」と題して、植村会長とハンガリーのマンガリツァ豚を取り扱うパラノビチ・ノルバート氏の講演と質疑が行われた。その後会場を移して消費者200人、関係者150人が一堂に会してTOKYO Xとマンガリツァ豚などを試食しながらの交流会となった。

滋賀県食肉事業協同組合、生活衛生同業組合が26年度通常総会

滋賀県食肉事業協同組合(中江義孝理事長)、生活衛生同業組合(同)は21日、大津市のピアザ淡海で平成26年度通常総会を開催。議事では、食肉事業協同組合、生活衛生同業組合ともに平成25年度の事業報告、収支決算、特別会計決算報告及び監査報告、26年度事業計画案、収支予算案について審議され、いずれも承認された。

また、来賓として滋賀県農政水産部畜産課の内藤慎吾課長(代読)、滋賀県県民文化生活部生活衛生課の林宏一課長、原田浩之副参事、滋賀県生活衛生営業指導センターの谷本義弘専務理事、日本政策金融公庫大津支店の田倉聡敏上席課長代理、滋賀県中小企業団体中央会の山田俊明事務局長、(株)滋賀県食肉市場の山田耕三社長、近江牛生産流通推進協議会の中村忠司氏が出席。代表して林課長、内藤課長(代読)、田倉上席課長代理が式辞を述べた。